

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, July, 2005

課長 関 勉 T. Seki 幹事 佐藤裕久 H. Sato
幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 江崎裕介 Y. Ezaki

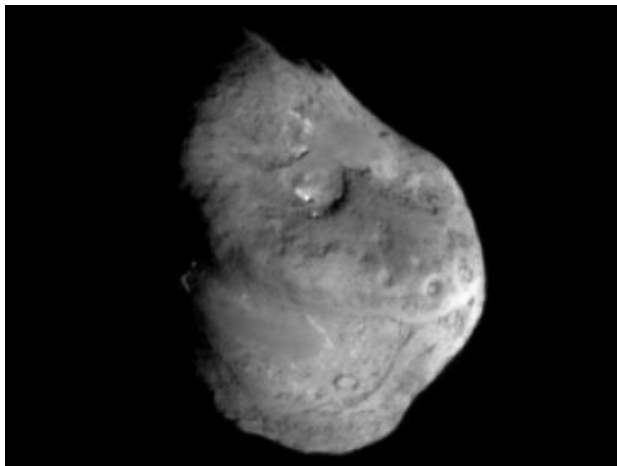
7月の状況 (佐藤)

☆ 9P/Tempel 1

7月4日14時52分(JST)、見事9P/Tempel 1の核(写真 a)に衝突させることに成功した。24時間前に探査機から切り離された人工頭脳を搭載した衝突体(インペクター)が二度にわたり軌道を修正し最良の場所に衝突させた。衝突の瞬間、探査機から閃光が観測された(写真 b)。日本国内では生憎梅雨真っ盛りでかろうじて晴れ間のあった石垣島や北海道で衝突後の増光を捉える事ができた。また、ハワイのすばる望遠鏡でも増光を捉えた。

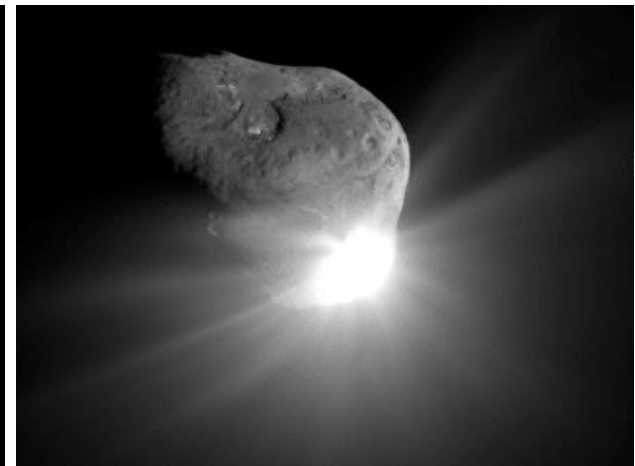
Mike Linnolt (Woodside, CA)は、20cmL (107x)による衝突前後の全光度眼視観測を、次のように観測した。集光度(DC)に大きな変化が見られたが全光度の増光は0.5等ほどにとどまっている。

衝突前	2005 Jul 02.25 UT:	m1=11.0, Dia=2.2', DC=5
衝突後	2005 Jul 04.2451 UT:	m1=11.2, Dia=2.2', DC=4
〃	2005 Jul 04.2500 UT:	m1=11.1, Dia=2.2', DC=6
〃	2005 Jul 04.2583 UT:	m1=10.9, Dia=2.2', DC=7
〃	2005 Jul 04.2674 UT:	m1=10.7, Dia=2.2', DC=8
〃	2005 Jul 05.26 UT:	m1=11.0, Dia=2.2', DC=5
〃	2005 Jul 06.26 UT:	m1=11.0, Dia=2.4', DC=4



(写真 a) 9P/Tempel 1 2005, 07, 04
衝突5分前の画像 (インペクターより撮影)

Image credit: NASA/JPL-Caltech/UMD



(写真 b) 9P/Tempel 1 2005, 07, 04
衝突67秒後探査機の高分解カメラによる撮影

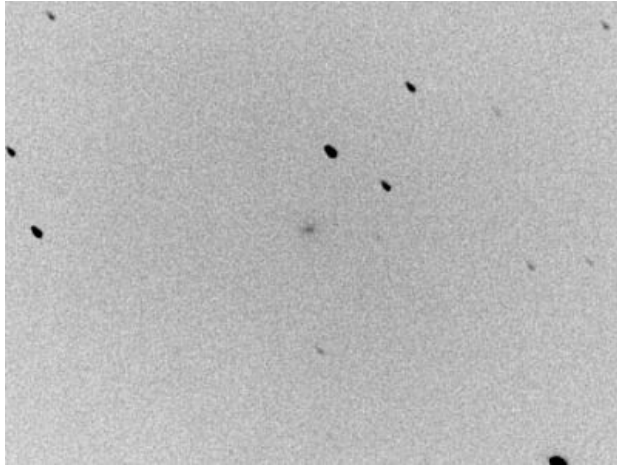
Image credit: NASA/JPL-Caltech/UMD

☆ C/2004 Q2 (Machholz)

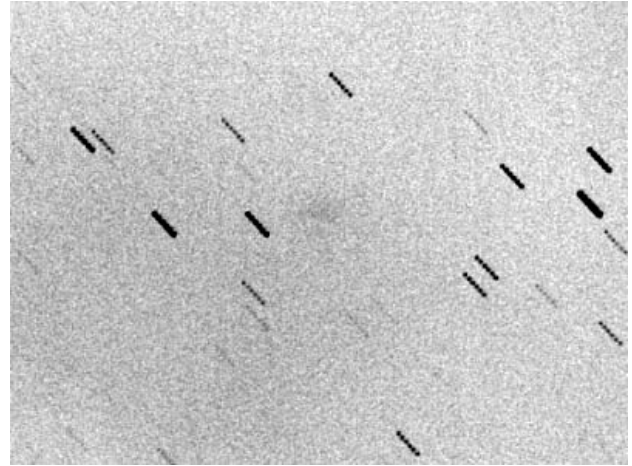
C/2004 Q2の光度は、7月中は10等台前半から11等台前半の明るさに推移した。全光度眼視観

測は、スペインの Juan José González は 7 月 12.02 日 UT、10.7 等、dia 3' DC 3 (20 cm SCT x77) と観測し、スペインの Jose Carvajal が、7 月 30.94 日 UT、11.4 等、dia 3' DC 3/ (45cm 反射 x100) と観測した。

空の澄んだところではまだ尾はハッキリと写っているようである。



(写真 c) C/2004 Q2 (Machholz) 2005, 07, 27
21h 25.0m~36.0m (JST) exp. 60s x5 MN61 + CCD
三重県上野市 田中利彦氏



(写真 d) 161P/Hartley- IRAS 2005, 07, 27
20h 40.0m~51.0m (JST) exp. 60s x6 MN61 + CCD
三重県上野市 田中利彦氏

2005 年 7 月に発見された彗星は次のとおり。

☆ C/2005 N1 (Juels-Holvorcem)

7 月 2.45 日 UT、Charles W. Juels (Fountain Hills、アリゾナ州) と Paulo R. Holvorcem (Campinas、ブラジル) が、Fountain Hills の 200mm レンズ+CCD で得られた画像から拡散した彗星を発見した。(IAUC 8557, 2005 July 3)

☆ 168P/2005 N2 Hergenrother = P/1998 W2

7 月 4 日と 5 日 UT、D. Herald (Kambah near Canberra, A. C. T.) は、0.36-m f/3.9 Schmidt-Cassegrain 鏡+CCD による画像から P/1998 W2 (Hergenrother) を検出した。MPC 45658 や 2005 Comet Handbook の予報に対し、 $\Delta T = +0.27$ day であった。(IAUC 8560, 2005 July 5)

☆ P/2005 N3 (Larson)

7 月 5.38 日 UT、Mt. Lemmon サーベイのプログラムコースで S. Larson が 4" のコマと p. a. 230° に 10" の尾のある彗星を発見した。短周期彗星である。(IAUC 8560, 2005 July 5)

☆ C/2005 N4 (Catalina)

7 月 6.28 日 UT、Catalina スカイサーベイのプログラムコースで小惑星状として発見され、他の CCD 観測者によって彗星であることが確認された。(IAUC 8568, 2005 July 14)

☆ C/2005 N5 (Catalina)

7 月 12.44 日 UT、Catalina スカイサーベイのプログラムコースで小惑星状として発見され、他の CCD 観測者によって彗星であることが確認された。(IAUC 8568, 2005 July 14)

比較的明るい彗星は、21P/Giacobini-Zinner、C/2005 A1 (LINEAR)、161P/Hartley- IRAS (写真 d)、C/2005 N1 (Juels-Holvorcem)、P/2005 JQ₅ (Catalina) などであった。